



11/27



11:00~15:15
和白干潟・海の広場



(福岡市東区和白4丁目) 参加無料 小雨決行



ノイバラ咲く和白干潟

♡ 干潟で遊ぼう!



第28回
♡ラムサール条約登録をめざして!
和白干潟まつり

おいしい食べものの販売もあるよ~。1日中楽しめます! くわしくは2pを見てね!!

第28回 和白干潟まつり

11月27日(日)

11:00~15:15



♥ラムサール条約登録をめざして♥

今年もラムサール宣言を出します！
福岡市長のメッセージが届きます！

干潟で遊ぼう

参加無料

.....
会場 和白干潟・海の広場
(東区和白4丁目海岸) 小雨決行 駐車場なし
.....

主催/ 和白干潟まつり 実行委員会

[構成団体] 和白干潟を守る会、
グリーンコープ生協ふくおか 福岡東支部

協賛団体/ 日本野鳥の会福岡支部、博多湾会議
(株)ファーストソリューション

後援/ 西日本新聞社、朝日新聞社、毎日新聞社、
読売新聞西部本社、九州朝日放送、RKB毎日放送、
テレビ西日本、TVQ九州放送、FBS福岡放送、
NHK福岡放送局

模擬店・バザーの出店希望の方へ

イベント・模擬店・バザーの出店希望は、
10/25までに 実行委員会にお申し込みください。
干潟まつり実行委員会で決定します。
(営利目的の事業者の出店はお断りしています)

お問い合わせ
お申込み 今村・092-942-5282

賛助金のご協力お願い

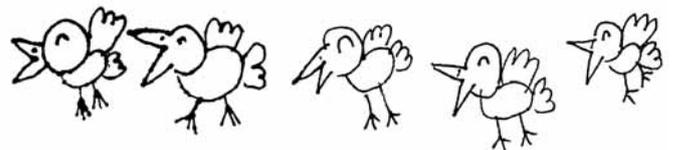
第28回和白干潟まつりを成功させるために、
皆様のご協力をお願いいたします！！

1. 賛助金として企業・団体で一口5,000円を、
個人は一口1,000円をお願いします。
何口でもかまいません。(賛助金は干潟まつり
の運営資金や保険料などにあてます)
2. 他の会の機関誌にも干潟まつりの案内を掲載
したり、チラシの配布にもご協力下さい！

賛助金の送り先：和白干潟を守る会
郵便振替 01720-4-23860

プログラム

開会式	11:00~11:20
バードウォッチング	11:20~12:00
自然あそび	12:00~12:40
植物観察	12:40~13:20
干潟の生物観察	13:20~14:00
コンサート・マジック	12:00~14:15
ミニシアターほか	
一言アピール	14:15~14:30
手をつないで	14:30~14:40
干潟の掃除	14:40~15:00
写真展・パネル展	11:20~15:00
模擬店・バザー	11:30~15:00
閉会式・ラムサール宣言	15:00~15:15
(後片付け・反省会)	15:15~16:00

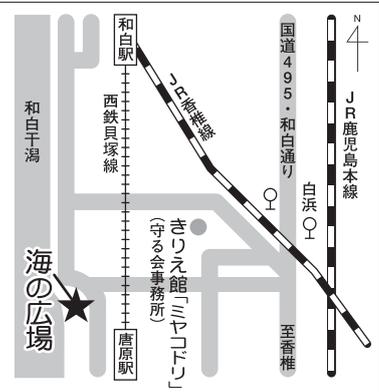


会場整備応援者募集!!

11/26(土) 15時~ 会場整備
当日11/27(日) 9時~ テント設営
応援お願いしま~す

交通

- 西鉄貝塚線
唐原駅より
徒歩5分
- 西鉄・JR和白駅
より徒歩10分
- 西鉄バス
白浜バス停より
徒歩5分



参加される皆さん、長靴・敷物は持ってきてね!

和白干潟の観察会のようす

(今村 恵美子)

7月4日(月)和白小学校4年生111名と先生4名の観察会

和白小学校では、年間計画で「季節にあわせて、和白干潟の自然の生きものやいとなみを知ろう!」「自分たちの身近にある貴重な自然を知って、守る心を育てよう!」というめあてのもとに、年2回の観察会とまとめの発表と授業が行われます。バードウォッチングでは、クロツラヘラサギやコサギなどを見て、牧の鼻のハマボウも望遠鏡で見ました。子どもたちはアシ原の手前でアシハラガニを捕まえはじめました。コメツキガニの巣穴のところでも思い思いにカニを捕まえて、バケツに入れました。「カニの左右のハサミの長さや大きさが違うのはなぜですか?」「海の水が湧き出ているところ(湧水)は何か所ぐらいあるのですか?」などの質問が出ました。事前学習をしっかりとしていることがわかる質問内容でした。1年間を通して和白干潟のことを学び、自然を守り大切にすることに育ってほしいと思いました。(有江)



7月19日(火)夏の和白干潟の自然さがし(雁ノ巣海岸)



梅雨が明けたとても暑い日で、14時に集合。参加者は15名でした。望遠鏡でマガモとカルガモを見ました。空には入道雲とすじ雲、対岸には海の広場付近の緑とバックに立花山という素晴らしい景色でした。浅い水の中に「砂茶碗」と呼ばれるツメタガイの卵塊を見つけました。雁の巣鼻近くに紫色の花のハマゴウがたくさんありました。ハマゴウの間に黄色い花のネコノシタがあり、「葉の裏がネコの舌のようにザラザラしているから」という説明を聞き触ってみました。雁の巣鼻の先にカルガモが50羽程いたので、近づくのを遠慮しました。16時から人工ゴミを拾い、大きいビニール袋10個がいっぱいになりました。最後にチェックリストを使って観察した植物や生き物や鳥を確認しました。海の広場付近とはまた違った物をたくさん見ることができました。(有江)

7月31日(日)「夏休み! 和白干潟の生きものやハマボウを見る会」

「和白干潟保全のつどい」主催。参加者は48名(大人28名 子ども20名)。守る会山本代表の挨拶、藤井講師が沢山の種類のカニなどの生きものに会えることを説明。干潟はアサミドリシオグサとポウアオノリがかなり広がっていました。牧の鼻ではハマボウが盛りを過ぎてはいましたが、大きな大木になり、子どもや孫の木も育ち一体化してどれが親だったのか一目ではわからないほどでした。今年は「直径2.7m・高さ5.5m・花の数200余・周囲に260株の子孫」がありました。花は昨年比去年に比べて盛りを過ぎていて極端に少なかったのですが、きれいな黄色の花をみんな喜んで眺めました。子どもたちは「カニがいっぱいいて楽しかった」「ハクセンシオマネキがよかった」と満足。初めて参加した人が多く、幼児を連れた家族が多かったようです。真夏の昼下がり、熱中症も出ず無事に終わりほっとしました。(今村)



9月15日(木)筑陽学園中学校3年生75名の校外理科学習



太宰府市からバスで訪れる校外理科学習は今年で24回目。心配された天気も予報はずれ、曇りのち晴。午前中は秋の渡りは未だ少ない中、野鳥観察とカニが中心の干潟の生き物観察。中学生もカニを追いかけるのは大好きです。午後は9つの班に分かれて、調査。守る会ガイド5名は、砂地、砂泥地、泥地・岩場の干潟の生きもの、植物、アオサなどの調査の指導をしました。生き物、植物に大きな変化は見られませんが、アオサは夏の高温のため発生が少なく、その代わりに「アサミドリシオグサ」が大量発生しているのが今年の大きな特徴でした。最後のまとめで、アサリやウミミナの浄化実験の結果をもらい、山本代表が生きものの浄化能力が保てる環境にしてほしい、と次代を担う生徒に語り掛けました。自然のサイクルが理解してもらえたでしょうか。(今村)

9月24日(土)ビーチクリーンアップ・漂着ゴミ調査

国際ビーチクリーンアップは世界的規模で一斉にゴミ調査をする催しです。9月24日のクリーン作戦では、海岸のゴミを1時間拾い集め、34種類に分類し、集計しました。今年は台風16号の降雨のせいかペットボトルや飲料缶が特に多かったです。人工ゴミを回収する班と自然ゴミを回収する班に分かれて27名が参加し、82袋のゴミを回収しました。九産大生、福岡女子大生、筑紫女学園高校生など若者たちが頑張りました。(山之内)



クコの実

ナス科。落葉低木。北海道から沖縄まで分布しています。原野、川岸、海岸などに自生しています。花期は8～11月、果期は10月～11月。葉や根皮はクコ茶、果実はクコ酒として親しまれ、薬効があります。和白干潟ではアシ原の入り口付近や和白川河口、雁ノ巣海岸などで見られます。葉のわきに1cmほどの紫色の花を付けます。果実は15mmから25mmの楕円形で橙紅色に熟し食用になります。秋のアシ原に赤い色を添えています。観察会では参加者にも甘くてほろ苦い味を味わってもらいます。



クコの実

アサミドリシオグサ



アサミドリシオグサ

シオグサ科。高さは5～20cm。体はあざやかな緑色で、多数の糸状態が1か所から束のように生えます。緑色の髪の毛を束ねたような感じで、手ざわりも髪の毛のようです。7～8月の福岡は気温が35度以上の高温の日が続き、37度の日もありました。気温や水温が高すぎたのでしょうか、アオサの発生は少なく、奈多の護岸下から沖合ではアサミドリシオグサがアオサと入れ替わって繁茂しています。アサミドリシオグサの生育温度は高いのでしょうか。一見してアオサと見間違いますが、細い糸状に枝分かれした海草です。この海草が異常繁殖していました。しかし37

度の高温ではさすがにアサミドリシオグサも分解したのか、9月には奈多の護岸下では少なくなりました。沖合には、アオサとともにまだまだありますので、今後も注目していきます。

ヒドリガモ

カモ科。全長49cm。冬鳥。中型のカモでくちばしは短く、首も短いです。雄の顔や頭部が赤褐色なのでヒドリガモとついたそうです。日本では九州以北の沿岸や河川、池などで見られます。和白干潟では異常繁殖したアオサが好物で、気持ち良いくらいさかんに食べています。アオサが多い時期には多くのヒドリガモが見られますが、12月下旬に気温や水温が下がりアオサが生息できなくなると、ヒドリガモは一斉にどこかへ飛んで行ってしまいます。今秋は9/21が初認です。



ヒドリガモ

秋の和白干潟のしぜん情報

アシ原：アシに穂が付きだんだん膨れてきます。キンエノコロの穂も出ました。センニンソウの白い花が木々を覆っています。ハマサジやウラギクの花が咲き、ハマツナやイソホウキギなどが紅葉。樹林帯のハゼやナンキンハゼも紅葉。アキグミやセンダン、シャリンバイやトベラなどの実がみのります。秋は実りの季節ですね。

干 潟：今夏の異常高温でアサミドリシオグサが異常繁殖して、アオサは9月頃にはまだ少なかったです。今後気温や水温が下がるとアオサが増えてくるかどうか注目していきます。アオサギやダイサギは増えてきています。

水 鳥：10月には淡水ガモが飛来。ミヤコドリやクロツラヘラサギも訪れます。11月には越冬するシギ類、カイツブリ類、カモメ類も渡ってきます。12月にはツクシガモやズグロカモメが飛来して和白干潟の冬鳥がそろいます。冬鳥たちの訪れは楽しみです。

6月25日(土)「日本湿地ネットワーク(JAWAN)」2016年度総会とシンポに参加

総会は愛知県豊橋市で開催され、全国から23名参加。行政や企業からまったく自由な立場で発言し活動するJAWANの存在は貴重なので、今後も活動を発展させていこうと呼びかけがありました。シンポジウム「日本の湿地を守ろう2016」があり、28名参加。講演「三河湾の現状と課題」、講演「貝屋の欲目から診た日本の干潟(貝産地)の現状」の後、アンパル(石垣島)、和白干潟、瀬戸内海、中池見湿地、三番瀬の報告がありました。特別報告は中山敏則さん(JAWAN)の「日本の湿地～現状と課題」がありました。「現状と課題」では、日本では「地元自治体などから登録への賛意が得られていること」がラムサール条約登録の条件になっており、開発を優先する自治体は登録に賛同しません。保全のために開発者の同意が必要という、矛盾した手続きになっていることが問題だ、と報告がありました。(山本)



7月5日(火)日本自然保護協会の自然しらべ2016「海辺で花しらべ」



午前中に和白干潟、午後に玄界灘に面した雁ノ巣外海で、自然保護協会のリーフレットに載っている海岸に咲く花しらべをしました。和白干潟のアシ原では、ハマナデシコが濃いピンクの花、白いテリハノイバラの開き始めた花、アキノミチヤナギ、ホコガタアカザ、ハマゴウの花、大きな穂をつけたヒトモトススキがあり、アシ原の入り口には穂が終わったハマニンニクやシオクグ、ツルナの花などがありました。浜辺のハマボウは花を一輪付けていました。

午後、外海ではハマニガナ、コウボウムギとネコノシタの大きな群落もありました。ハマボウフウは見事に大きな種を付けて次の世代の準備をしていました。(田辺)

博多湾をドローン実験場にする計画

福岡市は8月末、政府の国家戦略特区会議で「博多湾をドローンによる新たな事業を探る実験場」にしたいと提案しました。ドローンは航空法や電波法で規制を受けますが、特区となっているため、規制の緩和をし飛行しやすくする狙いです。波が穏やかな「博多湾全体」を実験場としていることから、一部の海域だけにとどまらず博多湾をめざしてやってくる渡り鳥、博多湾で生息や繁殖する鳥たちに影響はないのでしょうか？福岡市は博多湾の環境保全を掲げながら、経済振興策を進めることばかりで、環境への視点が見られません。

北九州・曽根干潟でカブトガニ大量死

北九州市の曽根干潟では、この夏カブトガニが約500匹大量に死んでいるのが見つかりました。絶滅危惧種のカブトガニの生息地として日本最大級の曽根干潟で、このように大量死するのは初めてのこと。他の生物の大量死は確認されておらず、海中の酸素濃度を調べても酸欠などの可能性はないとのこと。謎となっています。専門家による調査が依頼されており、原因が早急に解明されるよう待たれています。

気が付いたらあなたも電話してください！

- ▼海辺のゴミやアオサをとってほしい時・自分でゴミを拾った時
092-282-7146 (港湾空港局・維持課)
- ▼沖のアオサをとってほしい時
092-282-7153 (港湾空港局・環境対策課)

** お 願 い **

- 干潟でのゴルフやラジコンの練習、ドローンの使用はやめましょう！とても危険です。
- 干潟や堤防でゴミを燃やすのはやめましょう！(ダイオキシン発生防止、ゴミの野焼き禁止)
- 犬のフンの始末は飼い主がしましょう！



弱った野鳥を見つけた時→092-513-5611 福岡県筑紫保健福祉環境事務所 地域環境課
092-643-3367 福岡県環境部 自然環境課 野生生物係



●2016年6月

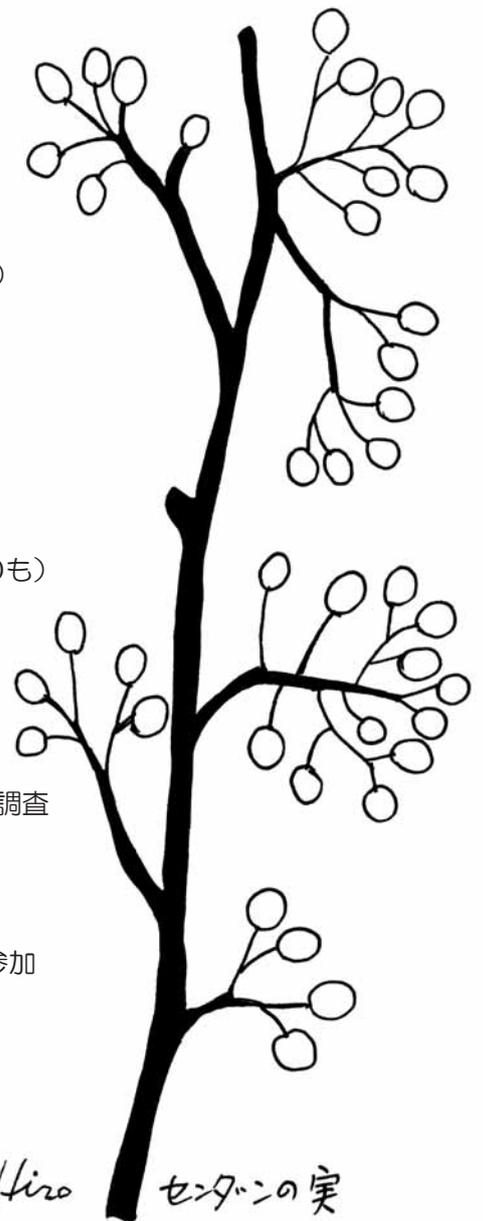
- 6/4 (土) 和白干潟通信119号編集会議
- 6/9 (木) 「和白干潟保全のつどい」会議参加
- 6/11 (土) 「唐原川お掃除し隊」参加(山・川・海の流域会議)
イオン黄色いレシートキャンペーン
- 6/14 (火) 和白干潟のラムサール街頭署名活動(JR福工大前駅周辺)
- 6/19 (日) 和白干潟通信119号編集会議
- 6/21 (火) 和白干潟のラムサール街頭署名活動(西鉄香椎駅周辺)
- 6/25 (土) 定例会議・和白干潟クリーン作戦と自然観察
JAWAN総会とシンポジウム参加(愛知県豊橋市六条潟)
- 6/26 (日) 六条潟見学と葦毛(いもう)湿原見学参加

●2016年7月

- 7/2 (土) 和白干潟臨時クリーン作戦(大雨の後でごみが多い為)
- 7/4 (月) 和白小学校4年生の和白干潟観察会
- 7/5 (火) 日本自然保護協会の自然しらべ2016「海辺で花しらべ」
- 7/9 (土) 山・川・海の流域会議定例会議参加
- 7/10 (日) 和白海岸探鳥会(日本野鳥の会)
「四季の和白干潟の自然I」リーフレット編集会議(8/20も)
- 7/11 (月) イオン黄色いレシートキャンペーン
- 7/12 (火) 和白干潟通信119号発送会
- 7/14 (木) 「和白干潟保全のつどい」会議参加
- 7/19 (火) 夏の和白干潟の自然さがし(雁ノ巣海岸)
- 7/23 (土) 定例会議・和白干潟クリーン作戦と自然観察
- 7/26 (火) 和白干潟のラムサール街頭署名活動(JR千早駅周辺)
- 7/28 (木) 雁ノ巣ヘリコプター基地設置についての和白干潟での騒音調査
- 7/31 (日) 和白干潟の生きものやハマボウを見る会(保全のつどい)

●2016年8月

- 8/7 (日) 2016年秋期シギ・チドリ調査1回目(今津)
「唐原川ふれあい環境教室」(九産大野生動植物研究会)参加
- 8/9 (火) 和白干潟のラムサール街頭署名活動(JR福工大前駅周辺)
- 8/11 (木) イオン黄色いレシートキャンペーン
- 8/14 (日) 和白海岸探鳥会(日本野鳥の会)
- 8/16 (火) 和白干潟のラムサール街頭署名活動(西鉄香椎駅周辺)
- 8/18 (木) 「和白干潟保全のつどい」会議参加
- 8/19 (金) 2016年秋期シギ・チドリ調査1回目(博多湾東部)
- 8/23 (火) 第28回和白干潟まつり第1回実行委員会
- 8/27 (土) 定例会議・和白干潟クリーン作戦と自然観察



Hiro センタンの実

干潟のつばやき「アオサが少なくアサリが感謝！」

今年の夏は異常でした。雨は降らず、毎日真夏日が続きました。北九州の曽根干潟ではカブトガニの大量死が起こりました。例年、和白干潟では8月末になるとアオサが大量発生しますが、今年はアオサの大量発生がなく、代わりにアサミドリシオグサが大量発生しています。アオサは、カモ達の餌にもなるので無くなれば良いと言うものでもありません。しかし「アオサがない！」ことは和白干潟のアサリ達にとっては嬉しいことです。例年和白干潟では、アオサが干潟の表面を覆い腐敗することでアサリを大量死させていました。アオサの大量発生が無いことで、アサリ達が年を越せるからです。この先、アオサが時期を遅らせて成長して行くのか、数年前にあったように大量発生は無いのかどうか。アサリ達のためにも、アオサの大量発生がないことを願っています。(山之内)



アオサの無い干潟に来たセイタカシギ

ラムサール条約登録を求める署名にご協力を！

大都市福岡に自然と共存する「博多湾・和白干潟のラムサール条約登録」を

次回2018年のラムサール条約締約国会議で和白干潟が選ばれるように、福岡市議会議長に対し、2015年秋から請願署名活動を始めました。2016年12月まで行っています。

皆様のご協力をよろしくお祈いします。守る会ホームページからも署名用紙をダウンロードできます。
<http://wajirohigata.sakura.ne.jp/>

「アオサのお掃除大作戦！！2016」報告



「和白干潟保全のつどい」主催。2016年度の「アオサのお掃除大作戦」の第2回目は9月17日に開催。イオンチアーズクラブの子どもたちを含め、77名が参加し、215袋のアオサを回収しました。

海の広場でアオサの生態やアオサ堆肥の話の後、各自ネット2袋とソリを持って干潟に入り沖合いの回収場所へ行きました。今年はアオサは少なく、回収場所はアオサとアサミドリシオグサが混じった状態でした。40分ほど作業を行って残ったアオサ袋をソリに乗せ、中継地点へ移動しました。中継地点で全員集まって記念撮影。その後アオサをソリに乗せてゴミ置き場まで運搬しました。例年と違ってアオサも

アサミドリシオグサも腐っていないため臭くなく、量的にも少なく作業は楽でした。作業終了後、干潟の生き物の勉強会を藤井さんが子どもたちに行ないました。終わってから感想を聞くと子どもたちは「もっと回収してもよかった、時間が短かすぎ」という声がほとんどでした。（山之内）

和白干潟の水質・砂質調査結果

下の表は2016年4月から2016年9月までの水質調査と砂質調査結果です。水質調査についてはCODが7月、8月と良く、透視度も良かったです。砂質調査については、昨年アオサの発生が多かったことで、10メートル地点の表層酸化層が薄くなっています。

水質調査結果 (2016年4月～2016年9月)

測定項目	単位	4月	5月	6月	7月	8月	9月
リン酸イオン (PO ₄)	mg/l	0.02	0.02	0.05	0.02	0.02	0.02
化学的酸素要求量 (COD)	mg/l	5	5	5	4	4	5
亜硝酸 (NO ₂)	mg/l	0.01	0.005	0.01	0.005	0.005	0.01
透視度	cm	100	100	27	100	100	100

砂質調査結果 (2016年4月～2016年9月)

測定項目	単位	4月	5月	6月	7月	8月	9月
10m地点 表層酸化層の厚さ	mm	3	2	11	4	5	4
還元層の黒色度	-	10	9	8	12	13	12
150m地点 表層酸化層の厚さ	mm	20	13	14	5	7	6
還元層の黒色度	-	9	10	9	12	11	12

守る会問い合わせ窓口

ホームページ：<http://wajirohigata.sakura.ne.jp/>

入会 / 観察会 (申込等) 山之内 芳晴 Tel. 090-8412-2663
 クリーン作戦 田辺 スミ子 Tel. 090-1346-0460
 広報 / 調査 / 定例会議 山本 廣子 Tel/Fax. 092-606-0012
 干潟まつり 今村 恵美子 Tel/Fax. 092-942-5282



【編集】 田辺 スミ子・今村 恵美子・高田 将文・山本 廣子・山之内 芳晴

《カット》くすだ ひろこ 次号は2017年1月に発行予定

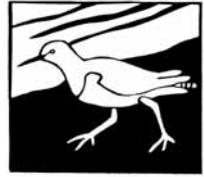
【編集後記】最近、和白干潟で鳥の調査を行っていて渡り鳥の数が少なくなっているのを感じます。和白干潟沖に人工島が建設されて干潟の環境が悪化し、渡り鳥が5分の1程に減少しました。その後も鳥は減っているので、和白干潟以外でも繁殖地のシベリアが温暖化や開発によって変わっているのではないかと気がかかります。（山之内）



お知らせコーナー

秋の和白干潟の自然さがし (雁ノ巣海岸)

秋の干潟ではどんな宝物が見つかるでしょうか？ 四季に1回ずつ開催いたします。
とき：10月25日(火) 受付9:45 開始10:00～13:00 長潮 満潮 5:54 干潮 12:18
集合：JR雁ノ巣駅 参加費：無料 雨天中止、小雨決行
持ち物：筆記具、飲み物、(あれば) 双眼鏡、ルーペ
服装：長そで、長ズボン、帽子、長靴 主催：和白干潟を守る会
問い合わせ：TEL 090-1346-0460 (田辺)



第3回 アオサのお掃除大作戦！！2016

とき：10月30日(日) 開始14:00～16:00
集合：和白干潟(海の広場) 東区和白4丁目海岸 主催：和白干潟保全のつどい
申し込み：不要 問い合わせ：TEL 090-8412-2663 (山之内)



バードウォッチング in 和白干潟2016

とき：12月4日(日) 開始10:30～12:00
集合：和白干潟(海の広場) 東区和白4丁目海岸 主催：和白干潟保全のつどい
申し込み：不要 問い合わせ：TEL 090-8412-2663 (山之内)

★定例スケジュール★

定例会議(10/22, 11/26, 12/17)

毎月第4土曜日10時半～13時 守る会事務所にて開催。
12月は第3土曜日。



会員募集中！
年会費 個人 2,000円
団体 5,000円
カンパの協力お願い
郵便振替 01720-4-23860
和白干潟を守る会

以下は参加自由です！仲間が待ってます！

クリーン作戦と自然観察(10/22, 11/26, 12/17)

毎月第4土曜日15時～17時 和白干潟・海の広場集合
長靴があると便利。駐車場なし。12月は第3土曜日。

和白海岸探鳥会(11/13, 12/11, 1/18)

毎月第2日曜日9時～12時 JR和白駅前和白公園集合
主催：日本野鳥の会福岡支部 参加費：一般は300円、中学生以下は無料 駐車場なし

ボランティアへのお誘い
和白干潟を守る会のボランティア活動に参加して、新たな自分を見つけませんか？あなたの経験や知識や技術が、きっと活かされますよ！

和白干潟の鳥たち(その76)

チュウシャクシギ(チドリ目 シギ科 / Whimbrel) 中杓鷗 [全長42cm]



写真撮影：三宅 僚

チュウシャクシギは和白干潟には旅鳥として、春と秋に渡来するシギの仲間です。下に曲がったくちばしを持つ大型のシギですが、ダイシャクシギよりも小さくてくちばしも短いです。和白干潟では春の方が多く、50羽ほどの大きな群れで飛来します。秋期には数羽の小群で行動しています。干潟の穴にくちばしを差し込みカニをとって食べます。ポーポーピルルルと口笛のような音色で鳴きます。シギの声は澄んでいて物悲しく、秋の大きく赤い夕日の沈む頃の風景が良く似合います。(山本 廣子)